

1 資料の整備

実施した各種の市民アンケートの結果によると、「読みたい本がない」ことが図書館を利用しない理由や図書館に求めるものとしてあげられている（図表 8-7、8-10）ことから、現在の図書館の資料に関する市民の満足度が低いことが、今後、常滑市が図書館を整備するにあたり、最も大きな課題の一つとなっています。

（1）資料費・蔵書冊数

厳しい財政事情の中にあっても、資料費を維持していますが、同規模の自治体と比較すると、人口1人あたりの資料費や蔵書冊数は十分ではありません（図表 4-12、5-2）。

（2）狭あいな図書館

図書館自体も他自治体に比べ狭小（図表 5-1）であるため、特に市民の目に直接ふれる開架エリアに配置できる図書の割合も少ないこともあり、より蔵書の新鮮度が低く感じてしまいます。資料の展示や紹介については、「視察先は展示に力が入っていた」「新刊だけでなく既存の本を活かした工夫があった」「熱意が伝わる」など視察時の感想（図表 0-0）などでも多くの意見があったことから、利用者が図書館に魅力を感じる重要な要素の一つであると考えられます。

（3）電子書籍の導入

電子書籍など、新たな資料の形への対応について、今後の普及状況や市民の方の利用状況等を見極めながら、その対応について検討していく必要があります。

（4）地域資料の充実

市民ワークショップにおいて「他の市から転入してきたが常滑について知る資料がない」「低学年の郷土学習における資料の充実」などご意見をいただいている（図表 0-0）ように、地域の歴史的遺産である地域資料を充実させていくことなども課題として考えられます。

2 登録・貸出・利用者サービス

現在の図書館の利用登録者数は5,211人と市民の約8.9%が利用するに留まっており、貸出冊数等も減少傾向にあります（図表 4-14）。図書館は利用されることが重要ですので、現在利用していない潜在的利用者層の利用拡大のためには、資料の整備はもちろんですが、施設の魅力以外にも、サービスや運営などソフト面での魅力を持たせることが重要となります。

(1)DX化による効率的なサービス提供

サービスや運用については、市民アンケートにおいて、「貸出や返却が手間」という意見が図書館を利用しない理由の一つとなっています。

一方で、市民ワークショップにおいても、「貸出等にかかる職員の事務量を軽減して図書館本来の業務に力を注いでほしい」という意見も多いことから、自動貸出機や予約本受取コーナーなどDXによる効率的なサービス提供により、本の紹介や展示、関連団体との連携やイベントの企画を充実させることが必要となります。

(2)SNSの活用

現在利用していない潜在的利用者層の利用拡大のためには、SNSなどを積極的に利用し、効率的な情報提供や新規利用者の獲得を行っていくことも、今後の課題の一つとして考えられます。

3 これからの時代に求められる図書館の役割

公共図書館に求められる役割が、大きく変わりつつあり（図表 1-1）、単に資料の貸出返却を行うだけでなく、「課題解決」や「交流」、「滞在」といったキーワードが新たに生じています。新しく図書館を整備するにあたっては、将来的に図書館が果たすべき役割を見据え、今まで以上に大きく変わっていく必要があります。

(1)課題解決の支援

人口減少や高齢化に伴い、常滑市においても、地域活性化や教育環境の充実、障がい者福祉といった多様な政策課題が生じます。これまでのように行政だけで取り組むのではなく、今後は、図書館という枠組みにとらわれず、図書館が市民団体やボランティアとともに「協働の場」や「市民活動の場」となり、課題解決を支援していくことが、これからの時代に求められる役割の一つと言えます。

(2)居心地の良い空間作り

施設に関しても、市民ワークショップにおいても、「閲覧スペース」や「過ごし方」に関する意見が多く（図表 0-0）、滞在するうえでの「空間」の作り方が大きな要素を占めると考えられます。図書館を整備するにあたっては、「ゆったり」「くつろぎ」が得られる空間設計、「にぎわいから静寂まで目的に応じて居場所を得られるゾーニング計画」「居心地の良いデザイン」などの検討を十分に行う必要があります。

4 家庭・地域との連携・協力

家庭における本の読み聞かせや、園文庫など地域における読書活動は、子供が成長する過程において、読書に親しみ、習慣化するために重要な役割を担っており、親子が身近に本を感じる環境づくりを進める必要があります。

(1) 家庭における読書活動の推進

こども図書室の整備により、6歳以下の年齢層の利用者が一時的に増えましたが、その後、減少しています（図表 4-20）。

常滑市では、すでにブックスタート事業への参加率は高い（図表 4-22）ですが、図書館における読み聞かせとともに、家庭における子供の読書活動をさらに推進していく必要があります。

(2) 地域との協力による読書活動の推進

幼児期の子供に対する読書活動は、子供の情緒性・感受性・創造性を高め、健全な心を育むために重要な役割を担っています。

すでに市内の保育園・幼稚園、子育て支援センター、児童育成クラブなどにおいて、様々な取組が実施されています（図表 4-23）が、園文庫の利用者数を見ると減少傾向にあります（図表 4-25）ので、今後も、図書館の協力者やボランティアとの協力により、地域における読み聞かせの充実など、幼児期に読書に親しむきっかけづくりを継続して行うことが重要だと考えます。

5 学校図書館との連携

小学生や中学生は、今後の読書習慣の形成を大きく左右する年代ですが、個人利用者数を年齢別にみると、中学生（5.4%）、高校生（2.3%）、大学生（2.2%）の利用率が特に低い傾向にあり（図表 4-20）、常滑市においても全国の動向と同じように、若い世代の読書離れが見られます。

中学生アンケートの結果によると、1か月の間にほとんど本を読まない生徒の割合は3割を超えており、「読書が好きか」という質問に対して「読書が嫌い」又は「どちらかと言えば嫌い」と答えた学生では、その割合は7割を超えます（図表 0-0）。

(1) 学校図書館の魅力の向上

常滑市では、中学生の8割が学校図書館に「ほとんど行かない」と回答しています（図表 0-0）。子供にとっては、公共図書館よりも、学校図書館の方がより身近な存在ですので、学校図書館の環境を充実させることも重要な課題の一つです。

図書館職員が、資料の選定や蔵書構成、図書のレイアウトの提案をしたり、図書の修理方法等の図書館業務を教授するといった機会を設けることも学校図書館の魅力を高

めるうえで必要であると考えます。

(2) 学校図書館の活用

司書教諭など教育現場において読書活動に携わる教職員と図書館の職員が意見交換する場を設けたり、協力して教育課程における図書館の活用計画を検討することも重要だと考えます。

6 特定の利用者へのサービス

今後、常滑市においても、障がい者や認知症高齢者の数が増えていきます（図表 7-11）。また外国人登録住民人口も同様に増えていきます（図表 7-10）ので、それぞれ特定の利用者の即したサービスを提供していく必要があります。

(1) 障がい者向けサービス

既存図書館では、障がい者駐車場や多目的トイレなどの整備、また数は少ないですが大活字本やＬＳブックの所蔵はありますが、対面朗読サービスや障がい者用資料の支出はない状況です。常滑市として、障がい者サービスに関する方針や計画を策定し、必要な機器の整備の検討や職員、図書館協力者、ボランティアへの研修を計画的に行うことが必要です。

(2) 外国人向けサービス

外国語資料は出版数も少なく、情報もあまり入ってこないため、既存の図書館では整備が進んでいません。常滑市は、国際空港を有する空の玄関である市として、総合計画の中でも「世界とつながる」まちを目標にしていますので、常滑市民の異文化理解はもとより、常滑市に住む外国人の生活支援に資するためにも、図書資料を通じた情報提供を図っていく必要もあると考えます。

7 図書館サービスの提供体制

複数の図書館で、全館一律のサービスを提供することは、資源（資料や人材）の分散等の課題があります。今後、全国的にも労働人口が減る（図表 7-2）と推測されており、常滑市においても 2040（令和 22）年には人口減少に転じ、その後、総人口の減少は加速することが推測される（図表 2-7）ています。

適切な場所に資源を集約し、専門性の高いサービスの提供体制をより強固なものとする一方、予約資料の受取・返却といった身近にあることが望ましい機能については、そのサービスを受けられる場所を増やすなど、施設の位置付けを考えたサービス内容を考

えることが重要です。

(1)既存図書館の位置付け

新たに整備する図書館をいわゆる中央館とする場合は、常滑市のあらゆる図書館サービスの中心的役割を担うことになります。現在、青海本館が担っている、書庫機能や選書・保存については、中央館が担うこととなりますが、その際、既存の青海・南陵・こども図書室をどのように位置づけるか（図表 4-1）という課題があります。

高齢化が進み、免許証の返納などをきっかけに移動範囲が制限されることも想定されるために、市の中心から離れた地区における、中央館に準じた役割を果たす施設とすることも考えられますし、財政や資源の面から、公民館図書室という身近に本と親しむことができる空間としての役割を担う施設とすることも考えられます。

(2)分散移転による整備内容

新たに整備する図書館をいわゆる中央館とし、一定規模のものとする場合は、分散移転した際に整備した、こども図書室や青海本館の書庫、また青海・南陵公民館のホール部分を閉鎖して整備した児童スペースをどうするのかといった課題もあります。既存の施設や機能をすべて維持することが理想的ではありますが、その維持には多額の費用が必要となります。

(3)公民館の今後のあり方

既存の図書館を何らかの形で維持することとなったとしても、今後は、現在の青海本館及び南陵分館が入る各公民館について、施設の大規模改修や更新の問題が生じてきます。各施設の老朽化状況を踏まえるとともに、市全体の公共施設マネジメント方針（図表 4-7）に基づいた検討も進める必要があります。